

「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現を目指して

『夢を実現し、未来を創る 熊本の人づくり』の理念のもと、学校が児童生徒にとって安全で安心できる学びの場となる環境づくりを推進する。

1 生徒指導の充実

- (1) 児童生徒相互の人間関係、児童生徒と教職員との信頼関係を構築するとともに、共感的理解に努め、学校総体として魅力ある学校・学級づくりを推進する。
- (2) 教職員同士のつながりを深め、積極的な生徒指導や組織的な教育相談等を通じて、家庭、地域、関係機関、専門家等と連携して問題行動等の未然防止・早期解消に取り組む。
- (3) すべての児童生徒に自己有用感や自己肯定感を感じられる居場所づくりを推進するとともに、不登校の未然防止に取り組む。特に、「愛の1・2・3運動+1」を実施し、欠席10日目までにはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家と連携し、早期対応に取り組む。
- (4) 不登校児童生徒への支援は、専門家や教育支援センター等の公的機関や民間施設とも連携して、一人一人の社会的な自立を目指して行う。また、進級・進学等に伴う引継ぎを適切に行うため、「不登校支援シート」等を積極的に活用するなどして、継続した支援に取り組む。

2 いじめの未然防止と対応の充実

- (1) すべての児童生徒に、人間関係を形成していく能力や立場や意見の異なる他者を理解する能力など、いじめを未然に防止するための資質・能力を育む教育を推進する。
- (2) いじめの背景にある様々な要因に着目し、その解消や環境の改善を図るとともに、SOSの出し方に関する教育等を充実させ、保護者と連携・協力しながら、児童生徒自身が主体的にいじめの問題の解決に向けて行動できる集団づくりを推進する。
- (3) 児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整備するとともに、教職員の児童生徒の小さな変化やサインに気付く力を高める。
- (4) 情報集約担当者の役割を明確にするとともに、いじめを察知発見した際の適切な初期対応及び専門家や関係機関との連携を含めたいじめの組織的な対応を推進する。

3 学校の安全教育及び安全管理の充実

- (1) 学校安全計画を見直すサイクルを構築するとともに、カリキュラム・マネジメントの確立を図り、系統的・体系的な安全教育の充実を図る。
- (2) 防災主任の役割を明確にするとともに、「学校防災教育指導の手引」を活用し、地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育及び避難訓練等に取り組む。また、令和2年7月豪雨及び熊本地震の経験を踏まえ、家庭、地域、関係機関等との連携・協働による防災教育の充実を図る。
- (3) 危機管理マニュアル等を見直すサイクルを構築し、事故等の未然防止や再発防止等に努め、事故等発生時には、適切な対応が講じられるよう組織的な安全管理の充実を図る。
- (4) 学校の立地状況等に応じて、家庭、地域、市町村防災部局、関係機関等との連携・協働による防災体制の整備に取り組むとともに、事前・発生時・事後の三段階に応じた危機管理の充実を図る。また、災害発生後の児童生徒等の心のケアの充実を図る。